

西洋人の無知と洗脳が何百万の人々を殺している

【訳者注】ヴルチェックはここで紹介する論者の中でも、最も尊敬できる一人だと言ってよかろう。2015/1/6 記載「2015 年はファシズムとの戦い——理性あるいは力による人類の防衛」を併せ読むことを、ぜひお勧めする。

これを書いている時点で、毎日続いている「パリ襲撃」についてのテレビや新聞報道を聞いて、前のシャルリ・エブド事件との関連からも、どこまで信じてよいものやら、と思っておられる方は、これや、前の P・C・ロバーツ論文を読んでご覧になるとよい。この 2 人は全く同じ将来の筋書きを予見しているが、彼らが確かなのは、正しい歴史認識の座標の上でこの事件を論じているからである。これに対してメディアは歴史無視の説明をしている。

特にヴルチェックが展開しているのは、何世紀も前からの大地球俯瞰図である。特に注目すべきは、ナチス・ドイツと米「帝国」が一つの「西洋」として括られ、ロシア（ソ連時代からの）と対立させられていることである。これによって目からウロコが落ちる。と同時に、我々自身が何であるか、欧米並（先進国）とは無自覚の犯罪者であることも見えてくる。おそらく我々も、プーチンの 40 の「テロ支援国」リストに入っているだろう。

By Andre Vltchek

Global Research, November 17, 2015

我々の地球惑星は、その歴史上、最も危険な衝突へとまっしぐらに突っ走っている。それは何か外部の物体、小惑星や彗星ではなく、それ自身の住人のうち最も残忍で利己的な一団との衝突——自らを誇って「西洋文明に属する者」と呼ぶ者たちとの衝突である。

何度も繰り返し、明らかに証明されたことがある——最高の心理学者カール・ユングがかつて「病理」(pathology) と呼んだ西洋文化が、信用できないものだということである。

この「文化」は、すでに、世界のあらゆる隅々の数億人を無慈悲に殺している。それは大陸を丸ごと奴隷化し、地表にあるもの、地下にあるもの、何であれ価値あるものを略奪した。

ヨーロッパとアメリカの住人や従僕国の支配者たちは、彼らの犠牲になった者たちの苦しみに、冷たい無関心を示した。

彼らはまた、この上ない無知と、最高の植え付けの成功例を見せつけた！

数世紀にわたって、フランス、イギリス、ベルギー、スペイン、ポルトガル、その他の西洋諸国の市民たちは、戦艦が岸を離れ、アジア、ラテンアメリカ、それにアフリカへ向かって出航するのを眺めていた——口をぽかんと開けて。彼らは、このような船が、どんな恐怖を繰り広げようとしているのかを、実は知らないかのようなふりをしていた。船が、奴隷や想像もできない戦利品を満載して戻ってきたとき、彼らは自分の頭脳を閉ざして、再び無知を装い、彼らの都市や国家の繁栄が「西洋の才覚、進取の気性、勤勉」によるものであるかのように言い、決してそれが、テロや凌辱、ぞっとする世界の略奪によるものだとは言わなかった。

ドイツ人は、ホロコーストの犠牲者のどす黒い煙が立ち昇る強制収容所の煙突を見つめていたが、その後で「我々は知らなかった」と主張した。まさにそれこそ、すべての欧州人が何世紀にもわたってやってきたことで、見えない所で、彼らの軍隊やあらゆる種類の十字軍が、我々の惑星上のあらゆる人間に対し、略奪と野蛮行為を行っていたのだった。

歴史を通じて、ホロコーストは、アフリカの全域、中東、ラテンアメリカ、カリブ海やアジア太平洋、インド、オセアニアでさえ、何度も繰り返されてきた。

西洋人たちは、彼らの国家が犯している犯罪をやめさせようとして、指一本あげることもできなかった。自分たちが太っていく限り、どうしてそんな必要があろうか？ 彼らの卑しい臆病な知識人たちは、1パーセントにも満たないごく少数者を除いて、いまだに“彼ら他者”の残忍な虐殺、辱めや拷問の、本当の姿を描くことを拒んである。西洋の哲学者は、大学という皮膚硬化症的な施設に閉じ込められ、胸が悪くなるほど悲惨な世界を描く代わりに、その地位を手放すまいと売春をしている。メディアも芸術家もほとんど変わらない。

キリスト教の役割は広大かつ怪物的だった。近い将来、私は、それが地球的虐殺の引き金となったことを証明する論文と、同じ主題の、小さいが挑発的な哲学的な本を、有名なキリスト教神学者の一人と共著で出す予定である。キリスト教は（世俗主義とか無神論と呼ばれる、その非宗教的形態を含めてさえ）、非寛容、教義的頑迷、排他主義、優越コンプレックスなどを拡散している。それは正当化の道具だった。それは十字軍や、植民地主義的拡大、大量殺人、それに地方的文化総体の破壊を力づけさせた。

にもかかわらず、その同じ盗賊国家たち、同じ臆病だがサディスティックな文化、同じ強情な宗教が、いまだに権力にしがみつき、いまだに何百万の人々を苦しめ殺している。

彼らの墮落をもたらす兄弟である資本主義とニヒリズムは、世界中の人々を洗脳し、一方で

彼らを絶望の暗い谷間へ追い込んでいる。

それは彼らの大量破壊兵器が最も恐ろしいからであり、彼らのプロパガンダが最も進歩し、彼らの野党自体が最も洗脳されており、したがってほとんど存在しないからである！

戦争に次ぐ戦争、民族抹殺に次ぐ民族抹殺と、西洋人はいまだに愚かな遊びをしている！
彼らは、自分たちが世界に何をしているのかを認めようとしな

百人を超える人々が、先日の奇怪なパリの連続襲撃事件で死んだとき（誰が背後にいたのか？ 西側の同盟者？ ジハーディスト？ それとも彼ら自身の政府？）、ヨーロッパの人々は彼ら自身の犠牲者を悼んで嘆き、“あいつら他者”を指さし始めた。世界中の人々が、怖くて“ノー”と言えないためか、あまりにも洗脳が完全であるためか、フランス国家との連帯を表明し始めた。

“ジャングル”と呼ばれる、フランスのカレー市近くの惨めな難民キャンプの一部が、燃え上がった。ヨーロッパ全体で避難民たちが“報復”だとして襲撃された。しかし何に対する報復？ 結局、難民たちはただ、ヨーロッパとアメリカによって破壊され略奪された彼らの祖国から、逃げ出しているにすぎない！

しかし、平均的なヨーロッパ人は、世界をそのように見るように教えられてはいない。

平均的な欧州人と北米人は、世界のどこの平均的な住人たちより、体制に対してはるかに従順である。彼らは学ぶように要求されたことを学び、メディア/プロパガンダが噛み砕いて与えるものに、熱心に耳を傾ける。データベースはほとんど常に許可された枠内にある。

欧米諸国の平均的な市民は、毎日、何時間も（“ニュース娯楽番組”も含めて）奇怪な娯楽をむさぼっている。彼らは毎年、何十というプロパガンダ映画や断片フィルムを見ている。彼らは現実と虚構の区別がほとんどできなくなる。そのような市民は、世界中の何十億という男女や子供たちを、自分自身の物的便宜や安寧のために、平気で犠牲する。

彼らが知っていること、彼らが（多少とも抽象的に）感じていることはただ、自分たちが人類の残りの者たちより“優越している”らしいということ、自分たちの文化は例外的で、世界を支配する運命を予定されている、ということだけである。彼らが感じているのは、ただ、自分たちは世界のすべての天然資源を消費し、利用する権利をもっていて、自分たちの政府

は、西欧世界の外のどの国を生かし、どの国を滅ぼすかを、決めることができるということである。

何百万という人命が中東で失われたって？ 何千万という男女や子供がアフリカで、帝国主義によって殺されたって？ 構うものか、知ったことか。そうして西欧人は、食い、性交し、時には働き、また時には人生を楽しむか、よりよい利益を求めて争う——もっぱら自分のために。残りの世界は、そのような利益を与えるか補助するために存在する。それだけだ。

西洋人は愚かであるほど、自信のある傲慢な世界観をもっている。そのような人々は居酒屋にもいるが、国際的な組織のすべて、国連の要員をさえコントロールしていることもある。これらの大きな、牛肉のような、自足的なドイツ人や、スカンジナビア人、北米人、イギリス人は、“よく動くアジア人、不器用なアフリカ人、不安定なアラブ人”たちに、不動の優越感をもって話しながら、何をすべきか、彼らの社会を運営するにはどうすべきかを教える。そこに羞恥のかけらもない！ あなたは彼らが、「我々は地球を略奪した、この惑星を凌辱した。我々はまだそれをやっている」といって嘆くところを見ることはない——決して。

いかなる謝罪も、いかなる反省もなく、この流れをどう変えるか、盗んだものの少なくとも一部をどう返却するか、殺人をどうやって止めるかの、グランド・プランは何もない。

もちろんどこへ行っても、「地球が平和でありますように！」といった標語はある。

確かに、百人以上の人々がパリで死んだ。その直前には、50人近い人々がレバノンのベイルートで死んだ。一方、イエメンでは、毎月、何千という人々が死んでいる。またイランでは、すでに1万7000の人々が消えた——西洋の援助によるテロの犠牲者として。またリビアとシリアでは、何十万という人々が死んでいる。また何百万の人々がソマリアとイラクで死んでいる。そして、すでに約千万人が、略奪され凌辱されたDRC（コンゴ民主主義共和国）で死んだ。こうした人々のすべてが、西洋の襲撃や山賊行為、あるいは西洋の援助によるテロの直接の犠牲者である。

ムジャヒディーン、アルカーイダ、アルヌスラ、IS、…あのワッハーブ根本主義の全体は、最初、英国の、後に北米の帝国主義によって創られた。あのすべての邪悪で有害な連中は、ヨーロッパ人、サウジアラビア人、トルコ人、その他の大きな西側同盟国によって、武装され、資金援助され、便宜を与えられていた者たちである。

では、どうしてあの鼻持ちならぬ連中を、それほど熱を入れて武装し援助しなければならなかったのか？ それは、エジプトからイランからインドネシアに至るまでの、進歩的で社会主義的なイスラム教徒を、弱体化し滅亡させるため！ ソ連と、アフガニスタンのマルクス主義の芽のすべてを摘み取るため！ それら誇り高い独立国家の、何百万という進歩的な国民を殺すため！ 西側が、反対されることなく、すべて欲しいものを分取り、誰がどこを治めるかを決めることによって、支配するためだった。

いまロシアは、ジェット戦闘機によってテロに立ち向かっている。その爆撃機はこの人類の生き残りのために出撃している。ごく最近、ロシアはすでに恐るべき代価を払った。そして我々はそれが何であったかを知っている。ただそれは、想像できないほどの代価を、我々の惑星の生き残りのために支払うためだった。たった一つの戦争で、ナチスを敗退させるために、2,500万の人命が失われた。あるいはUSSRの経済支出の大きな部分が、西側の帝国主義と植民地主義を敗退させるため“だけ”に用いられた。

中国は軍事アドバイザーを送り、ロシアとがっちり肩を組んで彼らの側に立っている。

シリアは、あらゆる不利にもかかわらず、想像できないほどの勇気をもって戦い、何とか降伏を拒否することによって世界を驚かせた。その人民の半数は浮足立っていて、何百万の避難民が海岸に押し寄せている。しかしこの国は毅然と立っている——傷つき血を流しながらも、それでも立っている。

ラテンアメリカも同様だ——西側からのあらゆる悪意ある攻撃にもかかわらず、誇りを持ち、そびえるように立っている！

そして西側の、無知で利己的で残忍な群衆は、何も目に入っていない。彼らは、彼らの首脳に注ぎ込まれたプロパガンダを繰り返し、そこにわずかばかりのバリエーションを加えて、それを言論の自由だと言っている！

“パリ襲撃”以来、西側のプロパガンダは再びトップギアに入った。そのアップラチックス（お先棒担ぎ）たちは明らかに“準備され構えて”いた。未来の直接のシリア攻撃は、すでに前もって“正当化”されている。それはISISに対してでなく（公的な口実はそうだろうが）、アサド大統領と彼の政府——結局、シリア国民の大多数に支持されている政府——に

対する攻撃である。シリアに対する攻撃は“西側テロ”とは呼ばれず、何か“英雄的報復”のように言われるだろう。

この惑星を、毎日毎日、テレビのおしゃべりを監視している——ハリウッドのプロパガンダも、新しいプロパガンダ・ニュースも監視している——者たちに任せてよいだろうか？

何であろうと西側から出てくるものを、真面目に受け取ることができるだろうか——何世紀ものウソと殺人の後で？

私は自分の知っていることに忠実であろうと思う。そして私の知っていることは、誰が現実には、中東やアフリカ、アジアで何百万の人々を殺しているかである。

私は「帝国」の“内部犯行”を憶測はしないことにする——もっとも私はある強い疑いをもっている、もちろんもっている。なぜなら今、私は、証明できる事実のみ固執するつもりだからだ。

そしてその事実は、単純で、身の毛のよだつものだ——「帝国」は我々の惑星上の何千万という人々を、殺し続けてきたということ、「帝国」の存在と、あの習い性となった無知、根本主義、それに洗脳された市民たちの盲目がそれである！

(Andre Vltcheck は小説家、映画製作者、調査ジャーナリスト。彼は数十か国の戦争や紛争を扱っている。最近著は *Exposing Lies of the Empire* および *Fighting Against Western Imperialism*。ノアム・チョムスキーとの彼の対談集 *On Western Terrorism* がある。彼の政治小説 *Point of No Return* は批判と絶賛を受けた。*Oceania* は、南太平洋における西側帝国主義についての著書。彼の挑発的な、インドネシアについての本は、*Indonesia - The Archipelago of Fear* というタイトルになっている。アンドレは、teleSUR と Press TV のために映画を製作中である。長年、ラテンアメリカとオセアニアで生活した後、ヴルチェックは現在、東アジアと中東に住み、仕事をしている。彼のウェブサイトとツイッターは下の通り——

<http://andrevltchek.weebly.com/>

<https://twitter.com/AndreVltchek>)